

# 写生地紹介

## 三浦半島 最東端

島山 新治

### 三浦半島

神奈川県南端に突きでた海岸線は変化に富み大自然の景観に恵まれ四季を通じ観光施設の備えた行楽地として知られている。日本各地がそうであるように開発と観光化により変貌し続けるのは三浦半島も負けていないようだ。昔は漁村風景と云えば房総半島であり伊豆半島があつて三浦半島は横須賀と云う軍港や要塞地帯にありあまり親しまれていなかったことも一つの理由で、写生地として首都圏に近いのに訪ねる人は少ないように思う。

三浦半島の海岸線全体の紹介は避けて最東端から最南端にかけての荒波に砕け散る荒波の造り出した奇岩や岩礁、断崖に立つ白亜の灯台、海蝕洞など変らぬ自然のある海辺を歩く。

#### —東端の観音崎—

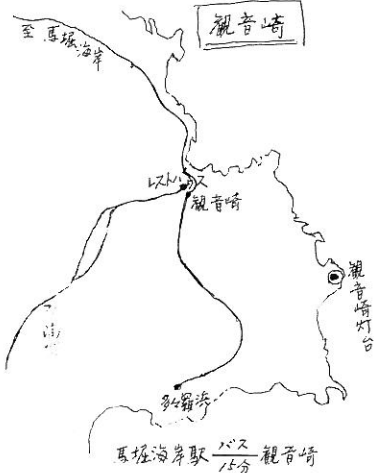
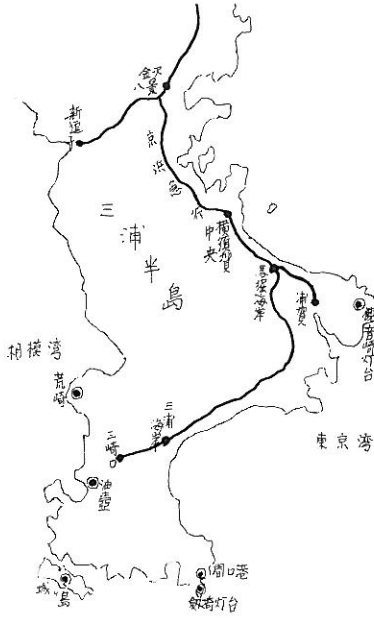
観音崎灯台を中心に岬一帯が県立観音崎公園に整備されているところで、海洋資料を展示した自然博物館や広大な八つの園地からなり浦賀水道を行きかう船舶の航行が眺望できる。岬の突端に立つ八角形の観音崎灯台は明治二年にわが国、初の洋式灯台として建てられ有名である。描くとなると早朝から筆を持たないと逆光になり忙しいし画題としてはもうひとつ食指が動かないように思うが点灯される夕ぐれ時の燭光は見る人によってはエキゾチックな情感がある。

#### —観崎—(つるぎざき)

最南端の観崎周辺を歩いてみよう。私鉄の京浜急行電鉄、三浦海岸駅からバス

で観崎下車、松輪地区の間口港までの丘陵地は三浦大根で知られる畑が続き、キャベツやスイカなど季節野菜の畑を通り小路を下ると二十分、間口港の魚市場の屋根が見えてくる昭和三十年代までは東京湾の魚介類がよくとれ大量の水揚げに港は沸き活況の時代が続いていたが、その後、漁は細るばかりで港の漁船五・六十隻のうち半数以上は釣船に変身した。休日は乗合客で賑わい磯や防波堤での釣も楽しめる。港には釣宿や民宿が多く宿をとる方はここを足場にするよ。

魚市場内からの港風景、陸に引き揚げられた漁船と裏山をバックに描ける。天候にもよるが釣客を乗せた船は沖に出払い港はカラッポになることもあるが閑散とした港風景もよいと思う。午後、沖から凱旋帰港する船としぶき、海鳥の舞う光景や磯の釣人も絵になる。間口港から磯つたいに進むとまもなく太平洋に浮かぶ白い帆、沖行く外国船や大型タンカーが見えてくる。岩場の先で波が高々と岩礁に打ち上げ、奇岩、断崖の先に悠然と観崎灯



台の姿が見え感動の瞬間だ。目線を高く低く、足場を移動しながら構図をきめる。この辺りの岩場から見る観崎は東側になり午前中の仕事になるが午後の逆光は午前には見られなかった風景に変わり好きなどころだ。

観崎の西側に移動するには岩場を飛び越えたり上ったり、下りたりで足元には十分注意が必要だ。岩場をしばらく進みながら辺りを見渡せばスケッチの二・三枚は描ける。荒々しいこの一帯は東側では想像しなかった観崎の景観が



▲ 観崎 (東側)



▲ 観崎 (西側)



眼前に迫り頑強な威風と存在感を見せ堂々と険しい断崖に立つ劔崎灯台を見上げながら腰を据え存分に描ける、大作も可能だ。西日を受けた白い岩肌は眩しいほどで磯釣りの楽しめるところでもある。

風景写生は歩き回り四季、天候の変化にもめげず通い朝夕の空気にふれ、そして自然と一体になり描きたいと思う。

何年前になるか自分を知らたく西側から、断崖と劔崎灯台を雨の口を選んで荒れる海と雨か、飛沫か、吹く風を岩場で避けながらスケッチしたことがある。心に残る感動を味い後日、一〇〇号にまとめた思い出がある。

— 荒崎海岸 —

バス停から遊歩道に従い木々に被われたゆるい坂道をのぼり、ひと汗かいたところの樹間から海が見えてくる、コンクリート製の丸太の柵が現われた辺りが荒崎海岸の高台になり岩にしがみつくように水い年月潮風に吹かれ耐えてきた一本の黒松がある。枝は陸地の方向をむきその樹姿は見て心に絵心を誘う、水いつき合いをしている。晴れた日には遠く伊豆の山々、相模湾上に浮ぶ富士も画面に収まる。岩場に下り磯の香を存分に吸い次の写

生地向う。この海岸の岩場は波状海蝕台地で、のこぎりの傘のよう鋭くとがった岩が重り合い他では余り見掛けない岩場だ。左手先方に松を乗せた弁天島がスケッチを求めている、岩に打ち寄せて潮の満ちている時の波

もよいし岩礁越に沖に行く大型タンカーや漁船、多数の白い帆が走るヨットも対照になる。劔崎海岸や荒崎海岸は岩礁地帯の続く荒波と潮風に浸蝕された奇岩、絶壁、海蝕洞が多く見られ潮だまりや砂浜で遊ぶ子供達や磯釣に一心の大人、パーベキユを染しむ若い男女など休日には賑わい人の手の入っていない自然ある海辺風景が見られる。

— 油壺 —

波静かな青く澄んだ入り江、油壺湾。帆を下ろしたヨットの帆柱が林立しているさまは驚きだ。クルーザも多数係留されヨットマン憧れのマリン基地になっている。相模湾の突き出た岬全体がレジャー施設で東洋一と云われる京急マリンパークはここにある。目的の写生個所が見当たらないので残念、しかし湾内に浮ぶヨットを歩き回れば描けそうに思う。

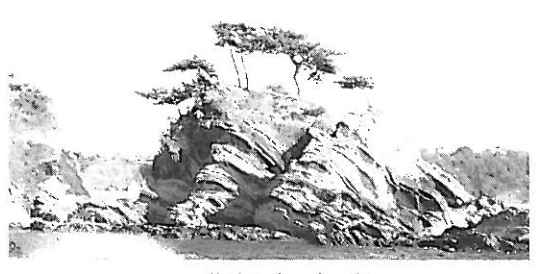
— 最南端の城ヶ島 —

城ヶ島へは三崎から城ヶ島大橋で渡る。岬はマグロ遠洋漁業の基地として有名で港は年々整備され磯の香が深い活気のある町だ。市内にはマグロ専門店や鮮魚介類のみやげ物

屋が軒を連ねている。対岸に横たわる岩礁や海蝕崖に囲まれた島が城ヶ島で橋のたもとに白秋自筆の帆船の詩碑があり「城ヶ島の雨」が刻まれている北原白秋記念館も近くにある。島全体は観光地化しています毎年(十一月から三月頃まで)赤羽根海岸の絶壁に飛来するウミウやヒメウの舞う光景はよい。城ヶ島公園からの日の出、西側にある城ヶ島灯台辺りからは夕映の富士が望める。



◀ 荒崎の海 F6



▲ 荒崎海岸・弁天橋